

自作農は二十八円四十七銭一丁を

地主は 十三円十八銭五丁を要して居るのであって現在の米の相場と対照する時、小作人の生活が如何に惨めなものであるかを知り得やう。而も農林省の發表によれば、小作人に比しいくらか生活上餘 ありと思はれる自作農も毎年一万戸以上小作農に没落してある状態を考へ合はするならば、農村の疲弊の實相は蓋し思ひ半ばに過ぎるものがある。

要之、如斯農民の生活苦を救ふものは一つに組織の力である。小作組合の力である。吾党は従来此の農村方面への進出を比較的閑却——それも暇なき爲ではあったが——して居たのであったが今後は吾九州聯合會に於ても各支部に於ても一切の勢力を拵げて農民組合の組織及び農民大衆の教化のために飽く迄

果敢なる闘争を展開せねばならぬ。

然らば農民組織の捷徑如何、由來農村は地主及び既成政党的金城湯地にして無産党危険呼ばはりの逆宣傳が極めて執拗に巧妙に行はれてゐるところから、思想方面から彼等に呼掛くことは中々の難事にして而も急速なる結果を期待し得ざるが常態である。されば吾党は總ゆる機会に於て努めて彼等と座談的に接觸して彼等の生活苦の據り来る原因を語り合ひ、以て直ちに其場に於て少数ながら一個の組合組織にまで推し進めねばならぬ。而して、然る後に於て此の一個の組織の基礎の上に起つて、一般農民大衆に対し、小作人の生活苦及び小作料、肥料の不当に高き理由等、小作人生活解放の路如何に就いての宣傳に死力を盡し該組織の拡大強化に努力